

# 「令和の日本型学校教育」のさらなる充実・推進に向けて!



香川県教職員連盟機関誌  
発行所: 香川県教職員連盟  
発行者: 北村 顕吾  
〒760-0004  
高松市西宝町2丁目6番40号  
香川県教育会館602号  
TEL (087) 835-2721  
FAX (087) 835-2723

九月十八日(金)、全日教連は、この度の人事で自由民主党政調会長に就任された下村博文衆議院議員及び、選対委員長に就任された山口泰明衆議院議員を表敬訪問するとともに要望を行った。香教連からは、原井和彦副委員長(全日教連事務局次長)が出席した。下村政調会長、山口選対委員長に、WITHiコロナ時代を見据え、令和二年度補正予算で措置されている教員・学習支援員・スクールサポートスタッフ等の人員配置の継続や、学校教育活動再開支援経費に替わる校長裁量経費の予算措置を要望した。さらに令和三年度予算において新たに措置してほしい少人数学級のための学級編制基準の引き下げや、GIGAスクール構想に高校を加えること、また特別教室や体育館に空調を設置すること等について要望した。



また、九月二十三日(水)、全日教連は十八日(金)に引き続き、この度の人事で自由民主党総務会長に就任された佐藤勉衆議院議員、幹事長代行に就任された野田聖子衆議院議員、組織運動本部長に就任された小野寺五典衆議院議員を表敬訪問するとともに要望を行った。香教連からは、前回引き続き、原井和彦副委員長(全日教連事務局次長)が出席した。また、要望内容についても先日と同様、令和二年度補正予算で措置されている人員配置の継続



野田聖子衆議院議員、組織運動本部長に就任された小野寺五典衆議院議員を表敬訪問した。

野田聖子衆議院議員とはライフワークである不妊治療について意見交換を行い、不妊治療とは女性だけの問題ではなく男性の問題でもあることを含め、女性が働きながら不妊治療に取り組める環境整備に向けて社会全体が不妊治療の理解を深める必要があるとの御意見をいただいた。また特別支援教育についても話が及び、全日教連が要望している特別支援学級の定数削減について賛同を得ることができた。



小野寺五典衆議院議員は、組織運動本部長に就任されたから、本日の全日教連の要望が初めてだったという話を教えてくださったとともに、非常に熱心に全日教連の要望に耳を傾けてくださった上で、「ここで何つた要望をしっかりと届けていく。これから学校現場の声を届けるため、組織を拡大していったほしい」と力強い激励をいただいた。

や、学校教育活動再開支援経費に替わる校長裁量経費の予算措置及び、令和三年度予算での少人数学級実現やGIGAスクール構想に高校を加えること、また特別教室や体育館に空調を設置すること等について要望するとともに意見交換を行った。佐藤勉衆議院議員との意見交換では、栃木県選出ということから地元の話をするということ、コロナ禍の学校現場の現状を報告し、現場で奮闘されている教職員の方々の努力について御理解を頂くことができた。

毎月10日発行 定価1部50円  
(年間1,000円 送料とも)  
会員の購読費は会費の中を含む

香教連は、結成四十六年を迎えた、子供中心の教育を目指し、健全なる批判力を持つ、県内最大の教職員団体です。



温故知新  
今回は「褒める(認める)ことも叱ることも大事です。」「子どもは褒められる(認められる)ことで、自己肯定感を高め、行動への勇気をもつことができます。そして、褒めてくれる(認めてくれる)先生のことに対する大好きになり、頼もしい気持ちになります。だから、たくさん褒めていきましょう。」  
これは何も今さら述べることもなく、今までに出版された多くの教育関係書籍やネット上などで示されていることです。ですが、教育現場でも浸透しきいていないかと思っています。「教師は児童生徒にとって怖い存在(威厳を保つため?)」でなければならぬなどの考えをもたれて、教壇に立たれている先生もゼロではないように感じます。子どもたちを指導する時に、褒めるよりも叱った方が即効性があります。子どもたちは叱られるのが嫌で、教師の言うことに従います。ところが、即効性に酔い、叱り続けてしまっただけで、後で大変なことになるかと続くとどうなるでしょうか?叱られ続けることで、子どもたちの心の中心に不満がたまってきます。パワーのある子は教師に反発して悪戯しようとする子も出てくることではないでしょうか。どうせ私なんて...と無気力になる子も出てくることではないでしょうか。クラス全体の雰囲気は悪くなります。先生に対する信頼もありません。正直、私たち大人だって、どの職種においても叱り続ける人の下で、意欲をもって勤務することはなかなかできないはずで、中には「自分を鍛えるために叱り続けてくれる人がいい」などと考えられる方もいるかもしれませんが、それはごく少数だと思います。相手は、子どもでも褒めましょう。ただし、褒めることにも注意が必要です。一つ目は、褒めるのは教師が本当によいと思つた時だけにすることです。褒めるとやら褒めるのではなく、本当に価値あることだと教師が感じられた時に褒めるべきです。「先生もうれしー!」など、感情を入れることも大切です。小さな事でも価値がそれにはあると、心から思えることも重要です。そのためにも、日頃の子どもの言動を見取るアンテナを常に張っていること(習慣つけておくこと)も大切です。二つ目は、叱ることも大切だということです。ある若年の先生が次のようなことを話してくれたことがあります。子どもたちは悪いことをするんだ!と思い、自分を責めるだけで、子どもを叱ることに躊躇してしまつた。確かにそういつたことは少なくありません。しかし、そうであっても、叱るべき時には、躊躇せず叱らなければなりません。叱ることでその子に気づかすことができ、また教室全体に安心感を与えることにつながります。重要なことは、叱りっぱなしにしないことです。叱った後は、名譽挽回の機会を与えてきた時にしっかりと褒めて終わりにすることが必要不可欠です。ここを落とすしてしまう場合が多いです。「叱った後は必ずチャンスを用意する。できなければ、できそうなことを段階的にチャンスとして与えていく。すぐに効果が見えないかもしれませんが、教師が意識し継続して取り組めば、教室や学校の雰囲気、さらに心地よくなるのではないのでしょうか。(題)

野田聖子衆議院議員とはライフワークである不妊治療について意見交換を行い、不妊治療とは女性だけの問題ではなく男性の問題でもあることを含め、女性が働きながら不妊治療に取り組める環境整備に向けて社会全体が不妊治療の理解を深める必要があるとの御意見をいただいた。また特別支援教育についても話が及び、全日教連が要望している特別支援学級の定数削減について賛同を得ることができた。

野田聖子衆議院議員は、組織運動本部長に就任されたから、本日の全日教連の要望が初めてだったという話を教えてくださったとともに、非常に熱心に全日教連の要望に耳を傾けてくださった上で、「ここで何つた要望をしっかりと届けていく。これから学校現場の声を届けるため、組織を拡大していったほしい」と力強い激励をいただいた。

